

平成27年度 富山県臨床精度管理調査結果報告  
生化学検査部門

市立砺波総合病院 臨床検査科  
石田 睦子

# 【はじめに】

- \* 平成27年度の精度管理調査は、一昨年、昨年と同様に酵素8項目および濃度項目17項目にCRP、HbA1cを含めた全27項目について実施しました。
- \* 前年度に引き続き、日本臨床衛生検査技師会 精度管理事業・データ標準化事業システムJAMTQC(都道府県用)を利用し、集計、評価を行いました。

# 【実施方法】

## \* 実施期間

試料配布日 :平成27年6月30日

試料測定日 :平成27年7月 1日

結果報告締切日:平成27年7月11日

## \* 調査項目(27項目)

AST・ALT・LD・AMY・CHE・CK・ALP・ $\gamma$ -GT  
TG・HDL・LDL・T-Cho・CRE・UA・UN・Na・K  
Cl・Ca・TP・ALB・TBIL・IP・Fe・GLU・CRP・HbA1c

# 調査試料内容

- \* 試料1:九州地区共通ヒトプール血清  
Q107(赤)凍結ヒトプール血清 2本
- \* 試料2:九州地区共通ヒトプール血清  
Q307(青)凍結ヒトプール血清 2本
- \* 試料3:グリコHbコントロール (シスメックス)  
レベル I 凍結乾燥品 1本
- \* 試料4:グリコHbコントロール (シスメックス)  
レベル II 凍結乾燥品 1本

# “組合せによる推測と対策”

2試料とも評価D

標準化されておらず、標準法及び標準品の採用が必要

\* TG・HDL-C・LDL-C・ALP・LD 各1施設

# “組合せによる推測と対策”

## 評価C+D

標準物質の確認、試薬管理、キャリブレーション間隔や設定確認が必要、場合によっては試薬変更も選択肢

- \* UN・ALT・ALP・TG 各1施設
- \* HDL-C 2施設

# “組合せによる推測と対策”

評価AまたはB+評価D

偶発的誤差、調査試料取り違いなどの調査が望ましい

- \* T-Bil・Cre・ALP・LD・CK 各1施設
- \* Fe・TC・TG 各2施設
- \* CRP 3施設

# “組合せによる推測と対策”

評価AまたはB+評価D の場合でも2年連続であれば、  
系統的な問題であり改善を考える必要がある

\* CRE・TG・CRP 各1施設



# 【結果および考察】

- \* 参加施設数は一昨年、昨年と同じ49施設であった。今年度は酵素・濃度項目・CRPは共通項目とし、HbA1c有りとHbA1c無の2コースを作り、施設の現状に沿った内容が選べるようにしました。参加施設のうち、共通項目にHbA1c有りが46施設、共通項目にHbA1c無が3施設でした。
- \* HbA1cは前年度に比べ、HPLC法が2施設減少して31施設、免疫学的法が1施設減少して6施設、酵素法が2施設増加して9施設となりました。

# 【結果および考察】

- \* 今年、“試料1、試料2とも評価D”は5、“評価C+評価D”は6あったが、“評価Aまたは評価B+評価D”が14と増加しました。“2試料とも評価D”、“評価C+D”、“評価Aまたは評価B+評価D”に該当する施設では、“組合せによる推測と対策”を参考にして、調査検討していただきたいと思います。
- \* 昨年“評価D”があった施設で、今回“評価D”がなかった施設が3施設あり、正しく対応された結果と考えられます。

## 【まとめ】

- \* 測定項目については、1施設でも多く日臨技認証施設となれるよう、日臨技認定施設申請の都道府県精度管理結果記入欄に記載されている生化学27項目を測定することにしました。
- \* 試料については、調査を重ねることでデータの比較が可能なため、一昨年、昨年と同様、酵素・濃度項目・CRPはヒトプール血清、HbA1cは市販凍結乾燥品を用いることにしました。